



嬉泉の新聞 第52号 2003年(平成15年)7月発行(年3回発行)

発行所=社会福祉法人嬉泉

東京都世田谷区船橋1-30-9(〒156-0055) TEL 03-3426-2323

<http://www.kisenfukushi.com> E-mail:kisen@kisenfukushi.com

発行人=石井哲夫 編集人=小山裕子

「オンブズマンとして」

弁護士 西村 武彦

私は札幌で弁護士をしていますが、縁あって知的施設のオンブズマンをさせてもらっています。

4月初旬の土曜日、私は長沼陽風学園という入所施設に、6年生の息子と3年生の娘を連れてオンブズマンの仕事をしに行きました。ここでのオンブズマンは5年目で、既に入所者とは顔なじみです。午後6時頃到着すると、玄関には私を出迎えてくれる方が10名くらいいました。これもいつものことです。Bさんは「先生は、子どものお守りかい。大変だね」と、Cさんはいつものように「あんた誰」と声を掛けてきました。また養護学校を卒業したばかりのDさんは、子どもに向って何度も何度も名前を聞いたりしていました。

私はいつものように個別に利用者と話などをしたのですが、その話の中で、言葉の聴きとりにくいAさんの母親が今日亡くなったという話を耳にしました。

玄関に入った時、Aさんが私の胸に頭をうずめて、「じんだ」という言葉を発していた意味が、その話を聞いて「死んだ」という意味だと分かりました。

利用者との個別の話を終えて、施設のホール付近を歩いていた時、Aさんは私の手を握って、職員室に連れて行きました。そして、職員の机の上にあった鉛筆と紙を持ってきて、Aさんは自分の名前をひらがなで書きました。そして私に読めと指示するので私が読むと、今度は漢字で自分の名前を書きました。5年オンブズマンをしていて初めてのことでした。

更にAさんは、近くに置いてあったある集会のパンフを持ってきて、私に指差しをして、主催者が感謝の言葉を述べている部分を読ませました。そしてその箇所をAさんは写しました。難しい漢字は飛ばしていましたが、文字を書いて私に見せてくれました。

Aさんのお母さんが亡くなったのは、私が施設に到着する4時間程前だったようです。重度のAさんは、言葉では私にその気持を伝えることは出来ません。文字でも自分の気持を伝えることは出来ません。

でも、彼は名前を書いた。そして感謝の言葉を書いた(ある集会での主催者が述べた言葉ですから、お母さんへの言葉ではありません)。

彼は優しかった母が何度も自分の手を取って教えてくれた、そのAという名前を私に書いて、彼の思いを伝えたかったのかなと思いました。最重度に近い数値のAさんの、その母親への思いを痛いほど感じました。

朝、Aさんは施設に泊まった私の2人の子どもとは握手をしていましたが、私には手を出して来ませんでした。でもそれがいつものAさんです。

帰りの車の中で、娘は「父ちゃんは知的障害者だと言ったけど、みんな普通じゃない。」と言ってくれました。

Aさんの母を追悼する気持は私達と全く同じです。Aさんが帰宅する私の子どもにサヨナラの握手をするのも普通です。

普通をもっと作るために、弁護士として「共に」歩いてみたいと思っています。

社会福祉援助論

石井 哲夫

- その15 -

支援費の一」と考える(その四)

支援費制度が発足して、思いかけてないことが起きつつある。それは社会福祉改革に便乗した地方自治体の格差是正の廃止などといふことである。そのため、福祉職員給与を節減せざるを得なくなつてきているのである。

困っているからこそ、この仕事をやることに張り合いを感じているのである。しかし、少ない経費で、貧しくとも耐えて、この仕事をやるべきであると言うのであれば、職員の質は悪くなつていく一方であろう。実は現に、このことが起りつつあるように感じている。今まで前述のように、福祉職員の給与は、国家公務員並みあるいは東京都の場合などは、それに上乗せした地方公務員並みの給与基準に基づいていた。社会福祉職員は、利用者が

設に就職していくても、ある程度年数がたてば、自分の家も持てた。しかし支援費制度となり国基準の経費になつて、東京都負担分が少なくなると、法人総収入が減る事態になる。そして職員の待遇が悪化してくれば、職員募集が困難となる。若い元気のよい職員が、短期間で自分の資質ののびる可能性を確かめ得ないまま、仕事自体の将来性に絶望して、離職しやすくなる。このような施策では社会福祉援助の質を高めることが極めて困難になる。社会福祉の困難な仕事を携わる人たちに、その仕事に対して意欲を失わない人事管理の主体的工夫を、競争的に出来るよう収入を保障するような制度を工夫して欲しいものである。

どこの施設でも引き受けない強度行動障害者を、3年で退所させるという制度を作つてよかつたことは、そこに、強度行動障害に挑戦する人が現れたからである。し

てきた結果、たどり着いた考え方である。これから先も、援助するところが難しい障害を持つ人に積極的に関わっていく仕事を続けることに関わっていく仕事を続けることへの不安や不満の大きなもの一つに、このような仕事についての社会の評価が一向に高まらないことがある。いま、強度行動障害者を抱えた家庭の崩壊を、必死になつて食い止めている現場があるといふことを社会の人達にわかつて欲しい。自閉症本人や家族たちが切実に求めているような頼りになる援助者集団としての社会福祉法人の運営を緊急に援助しないと、さらには危機的な状況におかれる障害者や家族が次々と現れてくる。この対策には、困難な障害を持つ人々やその家族と一生涯つきあっていく決意を持つ人達を集める社会福祉法人を、一つでも多く作る施策を考えて実施することではなかなかうか。社会福祉法人つぶしなどとく決意を持つ人達を集める社会福祉法人を、一つでも多く作る施策を考え聞くと、世の中が悪く動いていることを感じてしまう。私自身は、この社会福祉法人の中で、仲間と共に、直接この仕事を携わり困難な条件下で、よい職員を育てていくための仕組みを今後も考えていくべきだと思つてゐる。

第一歩

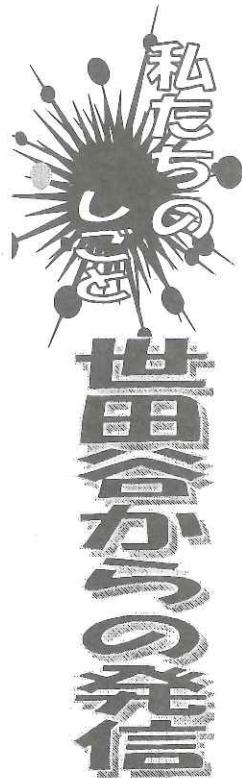
谷田さつき

おおらか学園が開設されて丸四年が経過し、今年で五年目に入りました。

おおらか学園の利用者は、日常的な会話ができ、一見、人とスムーズに交流できるようにみえますが、実は一方的であったり、現実的でないことがあります。その為、日常生活で外出した時にトラブルを起こすことが多いという問題を抱えている人も少なくありません。

そこで、学園でも、共に外へ出て現実の経験を通して利用者たちに何を伝えるべきかを私たちが改めて見直す場として、区民センターや図書館等の公共の場への参加や地元商店街のチラシを配る『ポスティング』を活動に取り入れています。

区民センターや図書館には、週一回出かけています。図書館で、例えれば好きな本をみたり借りるな



どのが楽しみの一つになつてます。一般の利用者も多い図書館では、とくに「静かにする」というルールを守らなければなりません。一般社会では、多々ある

「静かにする」ということも利用者にとってはとても分かりにくく難しいことです。そこで、私たちは「どうしたら、迷惑をかけずに本の話ができるのか」ということを利用者と考えるようにしました。

すると、彼の方から「小さな声で話をする」という答えが返ってきました。好きな本に出会うと、思わず興奮してしまうこともまだあります。すぐに自分で気が付いて小さな声で話ができるようになります。

また、例えれば、借りたい本がすぐにつからない時は、係の人に尋ねるということと一緒に行っています。その時は、事務的に尋ねるのではなく、私が間に入り彼が自分の気持ちを伝えられるように

しています。

ある時、本を借りたいと思った利用者が、欲しい本がみつからないことがありました。その日は諦めて帰りましたが、次の週、カウンターに向かうと、先日一緒に探してくれた係の人が覚えていて

この図書館には置いてあります。が、取り寄せることができます」と教えてくれました。諦めかけていた本がみつかった嬉しさと、人

の温かさを感じたようで「やさしい人だな」とつぶやいた彼の表情がとても印象的でした。そして、この経験は彼にとっても、社会に

ポスティングにおいては、利用者によって「毎度！」とかけ声をかけて入れる人、「～さん郵便ですよ」とプレートを読みながら入れる人、など投函方法は様々です。

屋間の時間帯は留守のお宅が多いのですが、時々私たちに気がついて出ててくれる方がいます。そのような時は、直接チラシを渡せばいいのですが、『チラシはポストに入れる』と理解していること

に切り替えることが出来ず、律儀にポストに入れようとする彼らです。最初は、私たちの様子をけげんそな表情でみていた家の方も、このような本人の状態を話すこと

で「そうなのね、ありがとう」とお礼を返してくださいます。

外に出て行くと公のルールが私たちの前に立ちはだかりますが、人とのふれ合いも外にでないと感じられないことです。彼らだけではなくみれば突飛な行動も、私たちが間に入ることで、人の好意も自然にでてくると感じました。

私たちができることは小さく限られていますが、外に一緒に出て行くことで、社会の理解や好意を引き出す役割ができるといいと感じています。(おおらか学園職員)



「礼儀正しく・丁寧に／＼がモットーです」

私たちの 赤塚からの発信

板橋区の
「障害者ケアマネジメント
事業」

齊藤 敦子

●はじめに
ケアマネジメントとは、利用者やその家族の生活状況やニーズをアセスメントし、そのニーズを実現させていくために、ケア会議を開いてケア計画を立て、実行し、利用者が地域の中で主体的に充実した毎日を送り、家族や仲間達と安心した生活が送れるように支援する手法をいいます。

●試行事業

今年度から、板橋区では、「障害者ケアマネジメント事業」が本格的に始まりました。板橋区では、①生涯地域で暮らす、②在宅は作らない(通所サービスを保障する)、という大きな障害者施策があります。それを推進するために、担当

区域の福祉園が核となって、その福祉園の利用者や地域の在宅の方をケアマネジメントの手法に基づきながらケアしていくこういうものです。

それに先立ち、昨年度、区内の各福祉園でモデルケースを出し、約半年間かけて研修と合わせて実際にケアマネジメントしました。

私は、高齢で病弱の母と一人暮らしをしているAさんを担当しました。その経過の中で、ケアマネジメントの必要性、難しさ、ケアマネージャーとしてのあるべき姿等々、いろいろと深く考える機会を持つことができました。このことがきっかけで、将来の自立に向けて、問題点や課題を整理し、具体的に動きだすことができた点、地域の社会資源の開拓にもつながった点、本人、母親の意識の変革、安心感など、実施したことによる

成果が多々ありました。

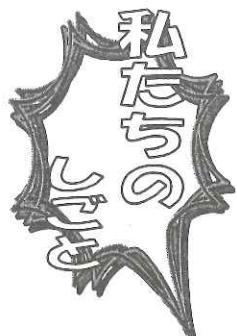
●在宅者からの相談

さらに、くしくも同じ時期に在宅の2ケースの相談を、赤塚福祉園が受けることになりました。親御さんの考え方で、約40年間殆ど家から出たことがなく、母親とひつそりと暮らしてきました54歳の方のケース。母親が高齢になり、将来を心配しての相談でした。今の時代に未だに40年間も外に出ることでのきながたBさんに思いを馳せるところです。Bさんは、授産でと、なんとかしたいという思いでいっぱいになりました。最初お会いした時は、失礼ながらまるで幽霊のようだったBさんが、授産で相談、対応した後、赤塚福祉園を気に入り、入園が正式決定しているうちから、一人で授産に姿をみせるようになりました。今では、別人のように笑顔が出、生き生きとした表情をみせています。妹さんの「人間らしくなりました。あらがとうございます。」の一言が、印象的で本当にうれしかったです。もう一件は、4月にアルコール依存症で亡くなった私の知人です。彼女には自閉症の子供がいます。私も、ずっと相談にのってはいたのですが、事の深刻さへの思いは不充分でした。結局、障害児を持つ

●最後に

ニーズとは、言い換えてみれば、困っている事、触れられたくないこと、その人達の問題点やマイナス面であり、そこに焦点をあてることが多いります。だからこそ、ケアマネジメントする側は、人間としての思いやりや優しさを忘れてはいけないのです。ケアマネジメントは知識や技法を身につけた生身の人間の心をするものなのだと、私は強く強く感じています。

(更生施設職員)



アトリエ・アウトスの活動

戸屋 隆

平成十五年五月二十日から二十一日までの六日間、千葉市美術館市民ギャラリーで『アートフレンズ展』が開催され、千人近い来場者がありました。アトリエ・アウトスは、初回から連続四回目の参加です。

今年は主催者でもある幕張ロータリークラブの考え方もあり、出展者選考の方法が、これまでの主催者側指定から公募に変更されました。そのためか昨年より出展数が増え、会場が狭く感じられたほどです。

で向かい側にある「スペースガレリア」というギャラリーが企画展をやつても良いと言つて来ているがどうか…との打診があり、『アートハート展』というかたちで、三名の作家の方を加え、同時開催することになりました。

同時開催ということで、セッティング等大変ではありましたが、収益以上に得たものが多くありました。



「スペースガレリア」会場風景

袖ヶ浦からの発信

私たちの活動をご理解いただき、無料で会場を提供して下さったギャラリーのオーナー尾谷さん、また主催者側の画家である深山さんや皆さんに心から感謝するものです。
(袖ヶ浦ひかりの学園職員)

「春を楽しむ会」を終えて

土澤 学

袖ヶ浦のびる学園。袖ヶ浦ひかりの学園では、季節に合わせた行事を合同で年に六回ほど行います。今年度、最初の行事として五月十四日に「春を楽しむ会」を行いました。会では、初めて各クラスで制作した旗についての発表がありました。この旗は利用者と新人職員が協力して作り上げたもので、

相互の関係性を深める目的で制作されました。旗には、各クラスの特徴が現れ、吹く風に力強くなびいていました。

次に各クラスによる植樹が行われました。植樹には花水木の苗木が用意され、参加した利用者全員が苗木の根の部分に土をかけました。普段使い慣れないスコップに戸惑う利用者もいたようですが、職員のサポートで皆上手に土をか

けることができました。最後にバーベキューをして会を締めくくりました。通常とは違う食事に不安を感じる利用者がいるのではと考えていましたが、用意されたたくさんの食材をお腹いっぱい食べて満足していただけたと思います。

今年は主催者でもある幕張ロータリークラブの考え方もあり、出展者選考の方法が、これまでの主催者側指定から公募に変更されました。そのためか昨年より出展数が増え、会場が狭く感じられたほどです。

また、今年は大きな変化がもう一つありました。この美術館は市の美術館で作品や複製品の販売ができず、以前から販売できるよう希望をしていました。主催者側から、千葉市美術館の前の道を挟ん



皆で「ハナミズキ」を植樹

嬉泉トピック

◆第20回

自閉症実践療育セミナー

テーマ..新しい療育への出発

講師陣..大嶋正浩・西村武彦

山口和彦・市川宏伸

石塚謙二・寺山千代子

山崎晃資・石井哲夫他

(出講順)

日時..7月31日(木)~8月2日(土)

会場..全社協・灘尾ホール

受講料..3日間20000円

定員..320名

△自閉症の早期療育・強度行動障

害への取組み・高機能広汎性発

達障害の臨床的研究・自閉症へ

の特別支援教育・他)

◆第39回嬉泉バザー

・「掘り出し物市」10月4日(土)

鳥山区民センター前広場

(京王線千歳烏山下車)

・「出会いと交流」10月5日(日)

子どもの生活研究所
(小田急線千歳船橋下車)

石井所長が名付けました。車の両

◆展覧会のご案内

ねむの木学園と世田谷区がジョイントして展覧会を行います。なお本法人アトリエAUTOSが世田谷区の展示を担当します。

日時..11月4日~9日

会場..世田谷区美術館区民ギャラ

リEA・B、美術館講堂

セミナー・催し物についての
お問い合わせ・お申し込みは
子どもの生活研究所
(03・3426・2323)

◆平成14年度 社会福祉法人 嬉 泉

寄付者名簿

(敬称略・順不同)

工藤邦英・村岡精一・浜ノ園利夫
菅原収三・山田美和子・村田操

大山勝地・綱川省三・小林秀一
湯浅正・下田明彦・吉原貞
鈴木佳子・小原ナツ子・黒林美江

賀戸文彦・木村元正・木村珠江
伊藤和子・山本博明・野村裕一

水口和恵・高田昇一・持田才子



その名も

「グリーンマインド」号

側のドアが開き、後部座席側はステップが自動に出てきます。小さいお子さん等も乗りやすくなっています。養護学校への送迎等にも活躍しており、「たのしみ」には大助かりの車となっています。これからも安全運転で活躍します! /

村田堅一・竹内昭子・山口潔
土谷新・水口儀也・池上やす子
小山悦夫・山岸陽子・宇都栄子
時永康男・山中勝子・工藤成一

中村二三男・新妻主計・田村匡

工藤正路・井出正代・市川すみ

片桐一平・納土郁子・田辺和夫

野田康夫・小原瑞穂・田村聰達

早瀬進・五十嵐シズ子・林孝

結城美紀・袖山登代子・齊藤穂

竹原直幸・小野澄江・藤宗篤雄

瑞穂工業技術研究所

袖ヶ浦市社会福祉協議会

宗教法人崇嚴寺・千歳丘教会

東洋英和女学院大学・嬉泉後援会

ひかりのと共に歩む会

巣鴨ときわ教会・北沢優甲会

朝日管財株式会社・日本赤十字奉

仕団世田谷区船橋出張所分団

めばえ学園保護者一同

アルミ缶リサイクル協会

株式会社プライムコーポレーション

・のびろ学園保護者会

社会福祉法人東京共同募金会

みずほアセット信託銀行

株式会社エルローズ

大日本法令印刷株式会社

(平成14年4月から15年3月)

ご協力ありがとうございました。

今後も、社会福祉法人嬉泉へのご

支援を心からお願いいたします。

Q式：嬉泉には、「職員倫理綱領」がありますか？

A式：倫理綱領とは、専門職及びその従事者の信念と価値観を、社会に向けて表明したもので、専門職従事者自身と一般社会の人々双方に對して、当該の専門職団体の特徴を具体的に明示するものです。

例えば社会福祉施設においては、利用者に援助サービスを提供するに当たって、当然ながらその従事者たる職員には、専門性と倫理観が強く求められます。それらを職員自身が自覚して、自らの行動を律するための行動規範として、倫理綱領が必要とされるということです。

Q式：倫理綱領とは何ですか？

A式：倫理綱領とは、専門職及びその従事者の信念と価値観を、社会に向けて表明したもので、専門職従事者自身と一般社会の人々双方に對して、当該の専門職団体の特徴を具体的に明示するものです。

行動や態度の元になっていること、どうしてその人は「そうせざるを得なかつたのか」というようなことを（）と考え、「まずは受け容れ、共感し、理解しようとする」とから始め、相手への好意をもち続け、「人間的な触れ合い・交流」を積極的に展開していくことで、その大切さを根気よく伝えていくたっては、同じ福祉関係ではあります、日本ソーシャルワーカー協会をはじめ様々な団体・施設等の倫理綱領を参考にさせていただきました。中でも東京都社会福祉事業団東京都八王子福祉園の倫理綱領は、シンプルでありながら必要充分な内容で共感するところ大であり、ほんのまま引用させていただいているところも多々あります。この場を借りて御礼申し上げます。

行動や態度の元になっていること、どうしてその人は「そうせざるを得なかつたのか」というようなことを（）と考え、「まずは受け容れ、共感し、理解しようとする」とから始め、相手への好意をもち続け、「人間的な触れ合い・交流」を積極的に展開していくことで、その大切さを根気よく伝えていくことや、周囲の状況や人との関わり、自我の働きを育んでいくことを目指します。私たちは利用者援助について自他とも認められる専門職をめざす者として、自らの役割と責務を自覚し、ここに倫理綱領を定め、最善の援助サービスの提供に努めます。（以下項目のみで、本文は省略）

行動や態度の元になっていること、どうしてその人は「そうせざるを得なかつたのか」というようなことを（）と考え、「まずは受け容れ、共感し、理解しようとする」とから始め、相手への好意をもち続け、「人間的な触れ合い・交流」を積極的に展開していくことで、その大切さを根気よく伝えていくことや、周囲の状況や人との関わり、自我の働きを育んでいくことを目指します。私たちは利用者援助について自他とも認められる専門職をめざす者として、自らの役割と責務を自覚し、ここに倫理綱領を定め、最善の援助サービスの提供に努めます。（以下項目のみで、本文は省略）

行動や態度の元になっていること、どうしてその人は「そうせざるを得なかつたのか」というようなことを（）と考え、「まずは受け容れ、共感し、理解しようとする」とから始め、相手への好意をもち続け、「人間的な触れ合い・交流」を積極的に展開していくことで、その大切さを根気よく伝えていくことや、周囲の状況や人との関わり、自我の働きを育んでいくことを目指します。私たちは利用者援助について自他とも認められる専門職をめざす者として、自らの役割と責務を自覚し、ここに倫理綱領を定め、最善の援助サービスの提供に努めます。（以下項目のみで、本文は省略）

（おわり）

（編集人 小山）

前文
私たち社会福祉法人嬉泉の職員は、利用者の表面に現われる態度や行動だけを見て、一方的に排除したり否定したりせずに、その奥にあるその人の心の動き（例えば

社会福祉法人嬉泉
職員倫理綱領

基本的態度
利用者本位のサービス
自己決定の援助
プライバシーの保護
サービス改善の要望相談

支援費制度が導入されて3ヶ月が過ぎた。保護者の方との話し合いで実感するのは居住区によって受けられるサービスに差が出ていることである。サービス内容だけではなく、福祉司さんの対応の仕方によってその区の福祉への姿勢が窺える。他の人から見て分かりにくく、生きにくさを抱えている自閉症児者ご当人もそのご家族を支える社会資源は豊かとはいえない。せめてそこで関係する人たちの姿勢だけでも支えや救いとなつた欲しいと思うのは、贅沢なのである。

最近、高機能自閉症・アスペルガー障害の方とお話をさせていただく機会が増えている。現行の制度では知的な障害を伴わないこれらの方々は、「療育手帳」の対象にはならず、「精神障害者保健福祉手帳」を取得するしかない。社会的なサポートを得るために致し方がない選択ではあるが、発達障害である自閉症の位置付けがきちんと出来ていないねじれをここでも感じる今日この頃である。

編集後記

ひかりのタイレス

独立第46号

パソコン・メールをやって
思う事（その②）

山岸 裕

『職員の助け』

40代でパソコンをやるわけだから、トラブルは起きた。2回押したり、画面が止まったり、印刷する枚数が多くなります。そういう時、職員の助けを借りる。パソコン世代の職員は手馴れた手つきでパソコンを操作し、トラブルを解決する。

ところが、そうでない世代（パソコン音痴の中年世代）はパソコンに不慣れで対応も適切でない。世代によってパソコンに対する職員の対応は違う。

『メールを打つて感じること』

学園にいた頃、職員から「仕事についてどう思う。何を目標にすれば乗り越えられるか」という問い合わせを始めた。私は自分が認

知した範囲の仕事観、乗り越えるべき物を書いたが、その職員は首を縦に振らなかった。私が仕事を取り組む姿勢が、その職員の求めるものと食い違ったからだ。これ以上、私に要求しても、職員の求めた答えは見当たらぬ。内側から出てこないので、その指導は終

わった。

この事例を持ち出したのは、漠然とした自分の考えをメールやBBS（インターネットの掲示板）で投稿すると出てくる。

特に仕事観のような動機付けが必要なものだと、余計そうだ。ワープロで書くと、漠然とした思いを活字にして表現することより、職員の求めに応じて答えを出そうという思いがあるため、内側の動機付けが出てきにくい。

平成十五年度パン工房。
菓子部 伊藤 訓育

平成十五年度は、クッキーとケーキが新しくなりました。製造は、良くがんばっています。パン工房は、山田富美江さんが入りました。

新たに、みつあみの仕事をはじめました。それは、みつあみのきじをまるめることです。もうちょっとがんばりなさいといつてました。ぱくとしては初めての仕事なので、ちょっと不安がありました。現在は進んでいます。

菓子部はケーキをいっぱい作ります。パン工房はみつあみパンとロールパンの仕事をしていきます。（袖ヶ浦ひかりの学園利用者）

平成十五年度パン工房 中村 須弥子
ふつうメロンきじまるめた。
チョコチップメロンきじまるめた。



「ハシビロコウ」
アトリエ・アウトス 持田想一画

（袖ヶ浦ひかりの学園利用者）
パンじゅうふきました。
さんしょくパンつくった。
（パンじゅうふきました）

『メールを打つて感じること』
学園にいた頃、職員から「仕事についてどう思う。何を目標にすれば乗り越えられるか」という問い合わせを始めた。私は自分が認知した範囲の仕事観、乗り越えるべき物を書いたが、その職員は首を縦に振らなかった。私が仕事を取り組む姿勢が、その職員の求めるものと食い違ったからだ。これ以上、私に要求しても、職員の求めた答えは見当たらぬ。内側から出てこないので、その指導は終

る。（メールアドレスを教えてもらう。その人たちに年末の挨拶メール、年始の挨拶メールを打つことで社会性めいたものが少し身に付いた。ただメールを闇雲に打てばいいものではない。）

（グループホーム・

春のひかり支局長）

平成14年度 事業報告

社会福祉法人 嬉泉

1) 理事会の開催状況

回数	開催日	議事内容
1	14.4.1	・理事長選出 ・常務理事指名 ・理事長職務代行指名
2	14.5.31	・13年度事業報告 ・13年度決算 ・諸規程改正 ・東京都指導検査指摘事項改善状況報告 ・赤塚福祉園苦情解決体制整備
3	14.9.25	・補正予算 ・諸規程改正 ・指定居宅支援事業者指定申請とそれに伴う諸規程制定
4	14.12.13	・補正予算 ・板橋区障害者サービス体制整備事業受託 ・諸規程改正 ・袖ヶ浦のびろ・ひかりの学園居室等使用目的変更
5	15.3.21	・補正予算 ・15年度事業計画 ・15年度当初予算 ・諸規程改正 ・千葉県監査指摘事項の改善報告 ・園長人事

2) 施設整備等

- ・就労・地域生活支援対策事業（措置費に加算）

支援費制度移行に向けた個別支援計画作成等に用いるパソコン及びソフトの導入

おおらか学園	1, 065千円
ひかりの学園	2, 101千円

3) 社会に向けての活動

- ①第19回自閉症実践療育セミナー（主催）

テーマ『自閉症への理解から援助を拓げる』

平成14年8月1日～3日 全社協灘尾ホール

- ②第19回自閉症治療教育実践講座（主催）

テーマ『一人ひとりを生かす療育』

平成15年2月7日～8日 須藤福祉センター袖ヶ浦他

- ③よろこび連続専門講座全5回（主催）

テーマ『自閉症の理解と療育』

平成14年5月～9月 子どもの生活研究所

- ④よろこび療育講座（主催）

テーマ『自閉症を支援する人の心構え』

平成14年7月15日 桜ヶ丘区民センター

- ⑤よろこび一般講座（主催）

テーマ『高機能自閉症・アスペルガー症候群児・者への支援』

平成14年6月7日 桜ヶ丘区民センター

- ⑥よろこびボランティア養成活動「泉わく・ワク会」（主催）

i 体験学習 ii 活動趣旨等の説明会 iii 自閉症の基礎講習 iv 登録後の活動

等を、原則毎月第4土曜日に実施した。ボランティア登録数13名。

- ⑦「嬉泉の新聞」の発行

第49号（6月発行）、第50号（11月発行）、第51号（3月発行）

- ⑧インターネット・ホームページの運営

URLの変更に伴う、内容及びレイアウトのリニューアルを行った。

<http://www.kisenfukushi.com>

⑨第38回嬉泉バザー

平成14年10月12日・13日 烏山区民センター前広場、子どもの生活研究所

⑩第25回嬉泉祭りバザー

平成15年2月23日 須藤福祉センター袖ヶ浦

⑪心身障害者(児)入所施設サービス点検調整委員会運営事業

袖ヶ浦のびろ学園・袖ヶ浦ひかりの学園において、以下5名のオンブズマンを委嘱し、サービス評価と苦情受付を実施。

氏名	推薦区分	職業
村田保太郎	関係団体	白梅学園短期大学教授
山田美和子	関係団体	元全国社会福祉協議会職員
高原 武	関係機関	東京都立墨東養護学校校長
石原 敦夫	保護者会	伊藤忠商事社員
斎藤 博文	地域	元袖ヶ浦市社会福祉協議会職員

⑫アトリエAUTOSの活動

・アトリエAUTOS作品展(第5回)

平成14年7月27日～8月2日 セッションハウス・ガーデン(神楽坂)

・アートフレンズ展(第3回)

平成14年5月28日～6月2日 千葉市美術館

・ほっとinふなばし芸術祭

平成15年2月4日～9日 船橋市民ギャラリー

4) 通常事業一覧

事業の種類	施設種別	名称	施設長氏名	利用者定員	職員数
第一種 社会福祉事 業	知的障害児通園施設	子どもの生活研究所 めばえ学園	大岩香代子	30(23)	12
	第二種自閉症児施設	袖ヶ浦のびろ学園	山根美江子	60	57
	知的障害者更生施設	袖ヶ浦ひかりの学園	川相智史	44	57
	知的障害者通所授産施設	東京都板橋区立 赤塚福祉園	友田篤	40	13
	知的障害者通所更生施設	東京都板橋区立 赤塚福祉園	友田篤	50	32
	知的障害者通所更生施設	おおらか学園	石橋悦子	20	13
第二種 社会福祉事 業	家庭児童相談事業	子どもの生活研究所 こぐま学園	石井哲夫		7
	知的障害者地域生活援助 事業	グループホーム 春のひかり	川相智史	4	2
	保育所	すこやか園	津留明子	36	20
	知的障害者短期入所事業 (ひかりの) 児童短期入所事業 (のびろ)	(地域生活支援セン ターたのしみ)	川相智史 山根美江子		のびろ ひかりの と 兼務
	相談支援事業	東京都自閉症・発達 障害支援センター	石井哲夫		5
公益事業	心身障害者緊急保護事業	東京都板橋区立 赤塚ホーム	友田篤	8	16

貸借対照表

法人名 社会福祉法人 嬉泉

平成 15年 3月 31日現在

資産の部		負債の部	
流動資産	345,402,745	流动負債	72,762,221
現金預金	321,374,995	短期運営資金借入金	2,895,257
有価証券	0	未払金	62,539,082
未収金	16,305,822	預り金	7,327,882
貯蔵品	0	前受金	0
立替金	0	仮受金	0
前払金	4,372,671	その他の流動負債	0
短期貸付金	2,895,257	固定負債	342,189,224
仮払金	0	設備資金借入金	289,328,000
その他の流動資産	454,000	長期運営資金借入金	0
経理区分勘定	0	長期預り金	0
固定資産	2,011,983,222	退職給与引当金	52,861,224
基本財産	1,617,127,191	長期特定引当金	0
建物	1,035,527,191	負債の部合計	414,951,445
土地	581,600,000	純資産の部	
基本財産特定預金	0	基本金	1,220,246,970
その他の固定資産	394,856,031	基本金	1,220,246,970
建物	68,278,215	国庫補助金等特別積立金	400,649,656
構築物	1,477,177	国庫補助金等特別積立金整備時分	400,649,656
機械及び装置	0	国庫補助金等特別積立金償還補助	0
車輌運搬具	14,329,237	その他の積立金	53,500,000
器具及び備品	27,269,841	移行時特別積立金	0
土地	170,741,375	人件費積立金	34,800,000
建設仮勘定	0	修繕費積立金	12,200,000
権利	0	備品等購入積立金	6,500,000
投資有価証券	6,398,962	その他の積立金	0
長期貸付金	0	次期繰越活動収支差額	268,037,896
公益事業会計元入金	0	次期繰越活動収支差額	268,037,896
収益事業会計元入金	0	(うち当期活動収支差額)	19,856,883
措置施設繰越特定預金	0	純財産の部合計	1,942,434,522
移行時特別積立預金	0		
移行時減価償却特別積立預金	0		
人件費積立預金	34,800,000		
修繕費積立預金	12,200,000		
備品等購入積立預金	6,500,000		
その他の固定資産	52,861,224		
資産の部合計	2,357,385,967	負債及び純財産の部合計	2,357,385,967

財産目録

平成15年3月31日現在

社会福祉法人 嬉泉

資産・負債の内容	金額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	
現金	443,727
預金	320,931,268
未収金	16,305,822
前払金	4,372,671
その他の流動資産	454,000
流動資産合計	342,507,488
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
建物	1,035,527,191
土地	581,600,000
基本財産合計	1,617,127,191
(2) その他の固定資産	
建物	68,278,215
構築物	1,477,177
車両運搬具	14,329,237
器具及び備品	27,269,841
土地	170,741,375
投資有価証券	6,398,962
人件費積立預金	34,800,000
修繕費積立預金	12,200,000
備品等購入積立預金	6,500,000
その他の固定資産	52,861,224
その他の固定資産合計	394,856,031
固定資産合計	2,011,983,222
資産合計	2,354,490,710
II 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	62,539,082
預り金	7,327,882
流動負債合計	69,866,964
2. 固定負債	
設備資金借入金	289,328,000
退職給与引当金	52,861,224
固定負債合計	342,189,224
負債合計	412,056,188
差引純資産	1,942,434,522

総括事業活動収支計算書

法人名 社会福祉法人 喜泉
(自)平成 14年 4月 1日 (至)平成 15年 3月 31日

勘定科目	合計	法人本部	めはえ学園	おわらか学園	子どもの生活研究 所	すこやか園	自閉症・発達障 害支援センター	袖ヶ浦のびろ学 園	袖ヶ浦ひかりの 学園	グループホーム のひかり	赤塚福祉園更生 施設	赤塚ホーム	赤塚福祉園授産 施設	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
事業活動収支の部	相談事業収入	22,432,390	0	0	0	22,432,390	0	0	0	0	0	0	0	
	利用料収入	2,280,016	0	0	0	0	0	0	0	0	2,280,016	0	0	
	措置費収入	473,215,401	0	48,416,570	46,784,422	0	0	209,124,341	168,890,068	0	0	0	0	
	運営費収入	47,094,950	0	0	0	0	47,094,950	0	0	0	0	0	0	
	私的契約利用料収入	457,000	0	0	0	0	457,000	0	0	0	0	0	0	
	その他の事業収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	經常経費補助金収入	751,705,408	6,443,050	13,230,000	41,359,378	3,159,000	39,587,240	6,613,210	137,988,040	126,129,490	3,504,000	196,408,000	82,523,000	94,761,000
	寄附金収入	26,995,220	25,185,000	100,000	100,000	150,000	100,000	0	672,020	605,200	0	83,000	0	0
	雑収入	33,051,357	16,784,825	388,850	101,460	727,300	140,840	0	3,070,579	9,159,899	34,740	1,463,590	833,528	345,746
	授産事業収入	1,621,749	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,621,749
事業活動収支の部	借入金元利償還補助金収入	2,495,000	2,495,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	引当金戻入	3,262,015	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	国庫補助金等特別積立金取崩額	24,234,050	1,360,908	3,127,416	4,299,120	497,764	2,962,651	0	5,746,265	6,239,926	0	0	0	0
	事業活動収入計	1,388,844,556	55,530,798	65,262,836	92,644,380	26,966,454	90,342,681	6,613,210	356,601,245	311,024,583	5,818,756	197,954,590	83,356,528	96,728,495
	事業活動支出計	997,197,460	22,489,585	52,041,035	75,374,086	23,189,580	63,809,330	4,650,576	254,605,617	228,737,443	2,867,516	136,773,656	64,549,702	68,109,334
事業活動外収支の部	人件費支出	119,995,299	19,949,149	5,095,410	6,952,355	4,085,594	7,981,120	742,363	23,306,080	19,044,314	1,384,786	14,051,721	7,222,261	10,180,146
	事務費支出	185,535,078	0	3,639,853	5,581,485	846,501	7,455,634	0	48,649,465	48,676,712	1,081,085	55,771,305	0	13,833,038
	減価償却費	64,136,408	5,632,744	7,376,165	10,355,309	642,246	7,371,190	0	14,627,306	17,307,263	824,185	0	0	0
	徴収不能額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	引当金繰入	1,920,992	1,920,992	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	事業活動支出計	1,368,785,237	49,992,470	68,152,463	98,263,235	28,763,921	86,617,274	5,392,939	341,188,468	313,765,732	6,157,572	206,596,682	71,771,963	92,122,518
	事業活動収支差額	20,059,319	5,538,328	-2,889,627	-5,618,855	-1,797,467	3,725,407	1,220,271	15,412,777	-2,741,149	-338,816	-8,642,092	11,584,565	4,605,977
	借入金利息配当金収入	3,754,300	3,754,300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	受取利息配当金収入	410,915	394,737	1,047	686	216	1,696	0	5,656	4,730	88	1,110	513	436
	会計単位間繰入金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	経理区分間繰入金収入	17,755,872	15,958,621	0	0	1,797,251	0	0	0	0	0	0	0	0
事業活動外収支の部	投資有価証券売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	有価証券売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	事業活動外収入計	21,921,087	20,107,658	1,047	686	1,797,467	1,696	0	5,656	4,730	88	1,110	513	436
	借入金利息支出	5,457,652	5,457,652	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	経理区分間繰入金支出	17,755,872	1,797,251	0	0	0	4,184,290	0	4,000,000	3,800,000	0	1,101,800	1,770,731	1,101,800
特別収支の部	投資有価証券売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	会計単位間繰入金支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	有価証券売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	資産評価損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	事業活動外支出計	23,213,524	7,254,903	0	0	0	4,184,290	0	4,000,000	3,800,000	0	1,101,800	1,770,731	1,101,800
	事業活動外収支差額	-1,292,437	12,852,755	1,047	686	1,797,467	-4,182,594	0	-3,994,344	-3,795,270	88	-1,100,690	-1,770,218	-1,101,364
	経常収支差額	18,766,882	18,391,083	-2,888,580	-5,618,169	0	-457,187	1,220,271	11,418,433	-6,536,419	-338,728	-9,742,782	9,814,347	3,504,613
	施設整備等補助金収入	1,390,000	1,390,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設整備等寄附金収入	5,700,001	5,000,000	0	0	0	0	0	0	0	700,001	0	0	0
	固定資産売却損・処分損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別収支の部	国庫補助金等特別積立金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特別収入計	7,090,001	6,390,000	0	0	0	0	0	0	0	700,001	0	0	0
	基本金組入額	1,000,000	1,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
繰越活動収支差額の部	固定資産売却損・処分損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	国庫補助金等特別積立金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特別支出計	1,000,000	1,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別収支差額	特別収支差額	6,090,001	5,390,000	0	0	0	0	0	0	0	700,001	0	0	0
	当期活動収支差額	24,856,883	23,781,083	-2,888,580	-5,618,169	0	-457,187	1,220,271	11,418,433	-5,836,418	-338,728	-9,742,782	9,814,347	3,504,613
繰越活動収支差額の部	前期繰越活動収支差額	248,181,013	135,776,668	4,972,830	-3,436,046	1,855,246	6,937,117	0	17,932,372	28,107,410	4,604,516	31,862,718	11,827,530	7,740,652
	当期末繰越活動収支差額	273,037,896	159,557,751	2,084,250	-9,054,215	1,855,246	6,479,930	1,220,271	29,350,805	22,270,992	4,265,788	22,119,936	21,641,877	11,245,265
	基本金取崩額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基本金組入額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他の積立金取崩額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他の積立金積立額	5,000,000	0	0	0	0	0	0	5,000,000	0	0	0	0	0
次期繰越活動収支差額	次期繰越活動収支差額	268,037,896	159,557,751	2,084,250	-9,054,215	1,855,246	1,479,930	1,220,271	29,350,805	22,270,992	4,265,788	22,119,936	21,641,877	11,245,265

総括資金収支計算書

法人名 社会福祉法人 嘉泉
(自)平成 14年 4月 1日 (至)平成 15年 3月 31日

勘定科目		合計	法人本部	めぼえ学園	おおらか学園	子どもの生活研究室	すこやか園	自閉症・発達障害支援センター	袖ヶ浦のびろ学園	袖ヶ浦ひかりの学園	グループホーム	赤塚福祉園更生施設	赤塚ホーム	赤塚福祉園授産施設
経常活動による収支	相談事業収入	22,432,390	0	0	0	22,432,390	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用料収入	2,280,016	0	0	0	0	0	0	0	0	2,280,016	0	0	0
	措置費収入	473,215,401	0	48,416,570	46,784,422	0	0	0	209,124,341	168,890,068	0	0	0	0
	運営費収入	47,094,950	0	0	0	0	47,094,950	0	0	0	0	0	0	0
	私的契約利用料収入	457,000	0	0	0	0	457,000	0	0	0	0	0	0	0
	その他の事業収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	経常経費補助金収入	751,705,408	6,443,050	13,230,000	41,359,378	3,159,000	39,587,240	6,613,210	137,988,040	126,129,490	3,504,000	196,408,000	82,523,000	94,761,000
	寄附金収入	26,995,220	25,185,000	100,000	100,000	150,000	100,000	0	672,020	605,200	0	83,200	0	0
	雑収入	33,051,357	16,784,825	388,850	101,460	727,300	140,840	0	3,070,579	9,159,899	34,740	1,463,590	833,528	345,746
	授産事業収入	1,621,749	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,621,749
	借入金利息補助金収入	3,754,300	3,754,300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	受取利息配当金収入	410,915	394,737	1,047	686	216	1,696	0	5,656	4,730	88	1,110	513	436
	会計単位間繰入金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	経理区分間繰入金収入	17,755,872	15,958,621	0	0	1,797,251	0	0	0	0	0	0	0	0
	経常収入計	1,380,774,578	68,520,533	62,136,467	88,345,946	28,266,157	87,381,726	6,613,210	350,860,636	304,789,387	5,818,844	197,955,700	83,357,041	96,728,931
経常活動による支出	人件費支出	997,197,460	22,489,585	52,041,035	75,374,086	23,189,580	63,809,330	4,650,576	254,605,617	228,737,443	2,867,516	136,773,656	64,549,702	68,109,334
	事務費支出	119,995,299	19,949,149	5,095,410	6,952,355	4,085,594	7,981,120	742,363	23,306,080	19,044,314	1,384,786	14,051,721	7,222,261	10,180,146
	事業費支出	185,535,078	0	3,639,853	5,581,485	846,501	7,455,634	0	48,649,465	48,676,712	1,081,085	55,771,305	0	13,833,038
	借入金利息支出	5,457,652	5,457,652	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	経理区分間繰入金支出	17,755,872	1,797,251	0	0	0	4,184,290	0	4,000,000	3,800,000	0	1,101,800	1,770,731	1,101,800
	会計単位間繰入金支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	経常支出計	1,325,941,361	49,693,637	60,776,298	87,907,926	28,121,675	83,430,374	5,392,939	330,561,162	300,258,469	5,333,387	207,698,482	73,542,694	93,224,318
	経常活動資金収支差額	54,833,217	18,826,896	1,360,169	438,020	144,482	3,951,352	1,220,271	20,299,474	4,530,918	485,457	-9,742,782	9,814,347	3,504,613
	施設整備等補助金収入	1,390,000	1,390,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設整備等寄附金収入	5,700,001	5,000,000	0	0	0	0	0	0	0	700,001	0	0	0
	固定資産売却収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設整備等収入計	7,090,001	6,390,000	0	0	0	0	0	0	0	700,001	0	0	0
	固定資産取得支出	16,728,607	7,614,469	124,110	935,008	140,175	232,575	424,200	4,458,216	2,659,385	140,469	0	0	0
	元入金支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設整備等支出計	16,728,607	7,614,469	124,110	935,008	140,175	232,575	424,200	4,458,216	2,659,385	140,469	0	0	0
	施設整備等資金収支差額	-9,638,606	-1,224,469	-124,110	-935,008	-140,175	-232,575	-424,200	-4,458,216	-1,959,384	-140,469	0	0	0
財務活動による収支	借入金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	投資有価証券売却収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	借入金元金償還補助金収入	2,495,000	2,495,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	積立預金取崩収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他の収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	財務収入計	2,495,000	2,495,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	借入金元金償還金支出	27,912,000	27,912,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	投資有価証券取得支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	積立預金積立支出	5,000,000	0	0	0	0	0	5,000,000	0	0	0	0	0	0
	その他の支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	流動資産評価減等による資金減少	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	財務支出計	32,912,000	27,912,000	0	0	0	0	5,000,000	0	0	0	0	0	0
	財務活動資金収支差額	-30,417,000	-25,417,000	0	0	0	0	-5,000,000	0	0	0	0	0	0
	予備費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	当期資金収支額合計	14,777,611	-7,814,573	1,236,059	-496,988	4,307	-1,281,223	796,071	15,841,258	2,571,534	344,988	-9,742,782	9,814,347	3,504,613
	前期末支払資金残高	253,243,585	108,149,041	9,378,755	2,609,911	1,768,780	11,352,638	0	26,118,437	37,233,676	5,201,447	31,862,718	11,827,530	7,740,652
	当期末支払資金残高	268,021,196	100,334,468	10,614,814	2,112,923	1,773,087	10,071,415	796,071	41,959,695	39,805,210	5,546,435	22,119,936	21,641,877	11,245,265